

## 病院勤務医負担軽減(平成28年度)

平成28年4月1日 外来運営委員会

計画		実施
医師看護師の業務分担	具体的な業務の振り分けを行う	業務についてはコミュニケーションをとり、患者さんに不利益にならないよう、努めることを周知した。
医師事務作業補助者の効果的な配置	文書作成システム「パピルス」を使った診断書作成支援が出来る医師事務作業補助者とクラークを育成する	繰り返し継続的な研修と育成が必要
地域と他の医療機関との連携体制	医療連携セミナーを年3回開催する	年3回実施済
外来縮小の取り組み	昨年より引き続き方針としてバトンタッチ紹介を実施。当院にて慢性的な疾患で受診している方を優先的に近隣の開業医へ会恵していく。何かあれば地域医療連携室に検査、治療の予約をして頂くことの推進	地域医療支援病院の基準クリアの為にも紹介逆紹介への取り組みを周知する。バトンタッチ紹介については、患者さんへポスター告知を行った。
医師の勤務時間管理	医師の超過勤務を確認して上位者に対し優先的に医師事務作業補助者、クラークを配置する	60時間を超える医師には産業医面談や精神科の受診を義務付け、毎月対応している。
委員会の開催	JCHO神戸中央病院外来運営委員会に名称変更し、病院勤務医負担軽減の検討を、医師、看護師、事務員で月1回行う	月1回のペースで開催している。
その他	学会関係の支援業務。医師が行う申請業務を事務にて把握し、対応する	すべてに至っていないが、7割の認定施設更新申請などを担当した。